

年度		法律(○)、市の計画等(◇)、市の関連施設(☆)	市民活動支援・協働関連事業	プレイスの事業	説明	施策の傾向 等	
平成	西暦						
10	1998	○特定非営利活動促進法制定	講演会(1事業1回、啓発系)		・20年度までは「NPO活動促進講座」として市が企画運営(ただし、サロン開設後の19年度後半以降は、(特非)武蔵野市NPO・市民協働ネットワークにサロン事業として委託) ・13年度までは一般向けの啓発系の講座等、14～19年度は活動をしている人に向けたマネジメントに資する講座		支援初期
11	1999						
12	2000		講演会(1事業1回、啓発系)				
13	2001		シンポジウム(1事業1回、啓発系) NPO補助金交付事業開始		NPO補助金予算30万円		
14	2002		講座(1事業1回、マネジメント系)		NPO補助金予算60万円		
15	2003		講座(1事業1回、マネジメント系)		NPO補助金予算60万円		
16	2004		講座&交流会(1事業1回、啓発・交流系)		NPO補助金予算110万円		
17	2005		講座(1事業2回、マネジメント系)		NPO補助金予算110万円		
18	2006		講座(1事業3回、マネジメント系)		NPO補助金予算110万円		
19	2007	◇武蔵野市NPO活動促進基本計画策定 ☆市民協働サロン開設	講座(1事業1回、マネジメント系) 講演会(1事業1回) 展示(1事業2回) 交流会(1事業1回、カフェ形式)		・サロン事業開始 ・サロンの管理運営を(特非)武蔵野市NPO・市民協働ネットワークに委託 ・NPO補助金予算220万円	サロン設置に伴い、マネジメント系の講座だけでなく、啓発事業、団体同士の交流を目的とした事業が始まる NPO補助金の予算額が倍になる	
20	2008	◇市民協働ハンドブック作成	情報誌(6回) 講座(2事業6回、啓発系、マネジメント系) 交流会(1事業10回、カフェ形式) 市民活動情報サイト運営開始		・20年度に市民協働ハンドブックを発行し、従来のNPO活動促進講座を含めた総合講座として職員・市民・NPO団体等を対象に実施した。 ・協働ハンドブックの職員向け講座実施 ・NPO補助金予算220万円	「協働」の語がメジャーになりつつある サロン事業の充実が見られる	



年度		法律(○)、市の計画等(◇)、市の関連施設(☆)	市民活動支援・協働関連事業	プレイスの事業	説明	施策の傾向 等
平成	西暦					
25	2013		情報誌(3回) 講座(2事業4回、啓発系) シンポジウム(1事業1回、啓発系) 展示(1事業1回) フェイスブックの運用開始	マネジメント講座6回 交流会4回 団体による講座3回 講演会1回 展示3回 情報誌4回	・25年度、「市民活動促進事業」企画運営を(特非)モンキーマジックに委託 ・コーディネート力向上のための職員向け講座実施 ・NPO補助金予算220万円	プレイス事業の充実が顕著になる一方で、市とプレイスで同趣旨の事業があるため、分かりにくいという意見 市は個人への啓発を重点的に実施することとする 「市(行政)でなければできないこと」を模索 SNSの活用開始
26	2014		報告書(1回) 講座(2事業4回、啓発系、マネジメント系)	マネジメント講座6回 交流会4回 団体による講座3回 講演会1回 展示3回 情報誌4回	・26年度、「市民活動促進事業」企画運営を(特非)モンキーマジックに委託 ・NPO補助金予算220万円	プレイスが市民活動支援の拠点である旨をより強く広報することにする 引き続き、市は個人への啓発を重点的に実施する 市の役割は、他機関との連携・調整などではないかと方向性を検討
27	2015				・事業再編により、「市民活動促進事業」を移管 ・NPO補助金予算220万円	啓発事業を含め、「活動前の個人」「活動中の個人」「団体」への事業は武蔵野プレイスが担う
28	2016					

プレイス事業の充実とともにその認知度もUP